

令和6年度補正予算事業
クールジャパンの技
美女男術セミナー

理容を儲かる業に

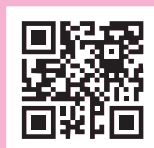
めざせ！
売上UP

Contents

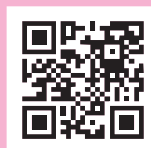
- P1 新メニューで儲ける
- P3 メンズメイク・眉毛デザイン
- P5 シェービング
- P8 フェイシャルマッサージ
- P10 レディースシェービング



メンズメイク



シェービング



富士額・三つ襟

I 儲かる業づくりの技

美女男術セミナー

技術動画はこちらから



メンズメイク

マニュアル内の二次元バーコードは、技術動画へのリンクです。

全国理容連合会では「儲かる業づくり」をテーマに各種事業を進めています。理容サロンが儲かることが、後継者不足や組合員減少等、業界の抱えるすべての問題解決につながるからです。

今回のセミナーは、シェービングとメンズメイクを中心に展開しますが、シャンプーやヘッドスパなどの技術も、儲かる業につながるメニューとなるでしょう。より質の高い新しいサービスを提供し続けることが、儲かる業につながっていきます。

この業が「儲かる業」であり続けるには。本セミナーをうまく活用し、工夫し続けてくださることを期待します。

新メニューで儲ける

①適正価格化を図る

売上を上げるわかりやすい方法は、増客もしくは値上げをすることです。もちろん、値上げには失客や来店周期の伸長などのリスクを伴うことも事実です。

近年は原材料価格の高騰や人件費の高騰などにより、物価が急激に上昇しています。理容料金を上げるとともに満足度を高め、お客さまの理解を得やすい環境にすることです。利益を削って値上げを我慢してきた理容料金。物価上昇等を転嫁した適正価格に見直すチャンスかもしれません。

ただ、単純な値上げは不安という方や、長く通ってくれたお客さまに気兼ねしてしまう、という方も多いと思います。「値上げとあわせてシェービングの内容を変更する」など、価格改定と合わせてサービスの質を上げると、不安や気兼ねも弱まりますし、よりお客さまの理解も得やすくなります。本セミナーの技術を活用してはいかがでしょうか。

②オプションメニュー化

「プラス1,000円でシェービングをアップグレード」とか、「もう1,000円でオイルマッサージまで」など、今までのサービスはそのままだに、本セミナーの技術をオプションとして販売し、売上につなげる方法です。総合調髪を松竹梅のようにコースメニュー化するのもおすすめです。

店内にPOPを置く、会話の中ですすめる、無料キャンペーンなどで技術の価値を知ってもらうなど、販売につなげるにはお客さまに知ってもらう必要がありますが、販売する側が技術の価値を認めていないとお客さまにうまく伝わりません。技術にかかる手間や粧材の価格、時間など、「手間がかかっているからすごい」「高い粧材を使っているからすごい」ではなく、お客さまの立場に立って「これならやりたい」と納得できるまで技術を高めてメニュー化しましょう。

また今回、メンズメイクについても触れていますが、若い世代では、男性も当たり前メイクするようになってきています。



眉毛デザイン 2,500 円～

あなたの**眉毛** 当店にお任せ下さい！
ヘアスタイルとのバランスを含めてご提案します！

カウンセリング	ご希望がうかがいながら理想の眉型を一緒に見つけましょう！
マッピング	カウンセリングした眉毛をペンシルで書いてイメージを確認します。理想の形に調整しましょう！
シェービング	マッピングした形にカミソリで整えます。理容師のカミソリテクニックを体感してください！
眉カット	眉カットで濃淡をつくれます。立体感が出て小顔効果もあります！
ペンシル	ご希望にあわせて、ペンシルなどで仕上げます！

若者層へのアプローチ、また、今後幅広い層へと広がっていくであろうことを見据えて、眉毛の欠損部分を少し書き足すとか、気になるシミをファンデーションやコンシーラーで消すとか、シェービングによる顔づくりをワンランクアップさせた提案をメニュー化しておくことも大切です。

③店販で売上増

店販による売上増も儲かる業への近道です。「育毛剤などは昔よく売っていたのに」などと感じている方も多いのではないのでしょうか。

しかし現代はネットショッピングの普及により「理容サロンじゃないと売っていない」という商品は少なく、価格面でも多くの場合、ネット上で購入した方が安いことから、以前のように店販品が売れなくなっています。

そうした中で、お客さまが店販品を購入するメリットは施術中に実際に使用した商品であること（商品を試せること）、商品知識豊富な理容師に相談できること、につきます。例えばシャンプーの時にシャンプー剤を選んでいただくとか、「髪が乾燥気味なのでしっとり系のシャンプーにしておきますね」と一声かけるとか、使われている粧材に少しでも意識を向けていただく工夫が必要です。また、少し高めの商品を奥さまや大切な人へのギフト用にラッピングして販売するなど、用途を提案して販売するのも効果的です。

今回メンズメイクの技術では、アイブロウペンシル、クリームファンデーション、リップ、海綿がセットになった「メイクスターターセット」を基本に使用しました。男性もメイクが当たり前とはいっても、気恥ずかしくて手を出せない方がいるのも事実ですから、最低限の粧材を詰め込んだ手軽なセットをラインナップしておくことで、メイクメニューの提供から店販にもつなげていきましょう。

④SNSの活用

新メニューや店販品は、インスタグラムやXなどのSNSを活用した情報発信が有効です。

「眉毛デザインなんて売れるの?」「メイクなんて売れるの?」と感じる方も多いと思いますが、そうしたメニューに興味を持っている若い世代は、SNSから情報を収集して来店されます。＃眉毛デザイン、＃メンズ眉毛おすすめ、など、検索しやすいハッシュタグを工夫しながら情報発信していきましょう。

また若い世代は、最新技術にだけ興味を持っているわけではありません。伝統的な本式のシェービングであったり、シャンプーであったり、格調高さや気持ちよさを前面に打ち出す工夫をして情報発信すれば、それを目当てに遠方からの来店も期待できます。

YouTubeなどには「ASMR」(人が聴覚や視覚への刺激によって感じる、心地良い、脳がゾワゾワするといった反応・感覚を指すもの)と呼ばれるカテゴリーがありますが、シェービングでヒゲを剃るゴリゴリという音や、一定のリズムでハサミを開閉するカットの音などは人気コンテンツになっており、そうした動画を見て来店するお客さまもいます。自店のサービスをどう伝えるのか、効果的な方法を常に探ることが重要です。



メイクスターターセット



ショートムービーなどでアピール

メンズメイク・眉毛デザイン

ファンデーションによる美肌づくりから眉毛デザインまでの基礎的な方法、知識を紹介していきます。メンズメイクで特に人気があるのは眉毛デザインです。サロンに求められる技術や知識のレベルも上がっていますので、お客さまに提案できる知識や技術を身に付けておきましょう。

01 メンズメイク

メイクスターターセットを使った美肌づくり、眉毛のお手入れです。メイク上級者向けではなく、「初めてのメイク」のようなイメージで組み立てていますので、短時間で終わらせること（簡単にできると感じてもらう）、厚塗りしない（違和感を感じさせない）ことに注意しましょう。

① クリームファンデーション塗布 (図1参照)

お顔の油分を取った後、海綿にクリームファンデーションをとり、手の甲で量を調整したら、黒目の下にのせます。①を内から外、外から内にタッピングしたら、海綿をフェイスラインへスライドさせてファンデーションを薄く伸ばします。②③も同様ですが、どちらも海綿をスライドさせる際は、首の中間あたりまで、ファンデーションがフェードアウトするようにします。④と鼻はタッピング、⑤は生え際にスライドさせて塗布します。それぞれ①の左右、②の左右と、左右同様にいきます。

② 眉毛のブラッシング

眉頭は上、眉中は横、眉尻は下にスクリューブラシで毛流れを整えます。

③ 眉毛のマッピング

眉毛デザインに合わせて眉頭、眉山、眉尻にアイブロウペンシルで目印を付けます。

④ 眉毛メイク

必要に応じて眉毛カットやシェービング後、①眉下の中心から眉尻、②眉山から眉尻、③眉頭から眉山の順にラインを決め、毛流にそって内側を埋めていきます。眉毛を1本ずつ書き足すようなイメージです。最後にスクリューブラシで輪郭をぼかして終了です。

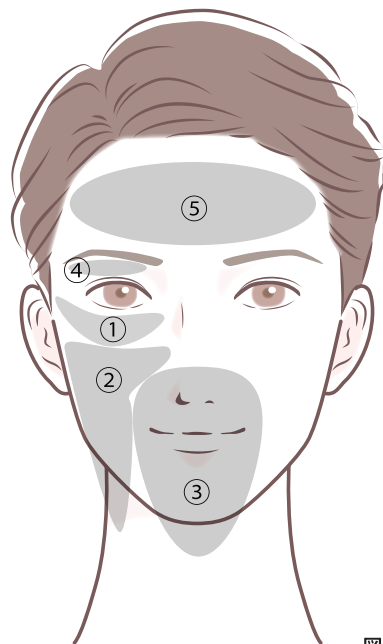
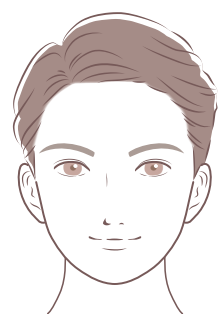


図1

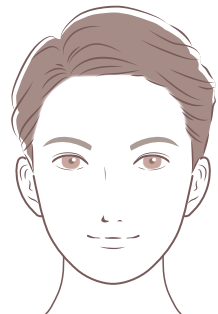
02 顔型に合う眉毛デザイン

ヘアスタイルと同様に、眉毛にも顔型に合うデザインがありますので紹介します。



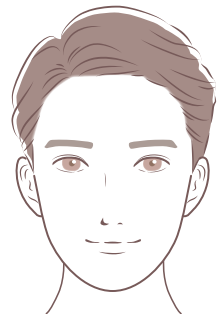
丸型

アーチ型がおすすめです。丸みのあるフェイスラインと緩やかなアーチでバランスが整いやすいです。



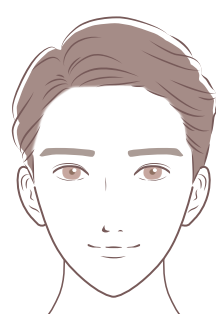
卵型

アーチ型や直線型がおすすめです。優しく見せたいのか、クールに見せたいのかで使い分けましょう。



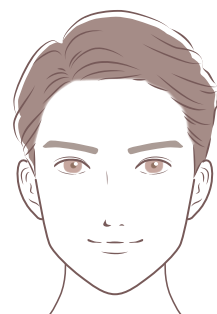
面長型

直線型の平行眉にすると縦長のシルエットを補ってくれます。眉は短めで左右に余白を作しましょう。



逆三角型

直線型の平行眉がおすすめです。長めにすると顔の横幅がカバーできます。



ベース型

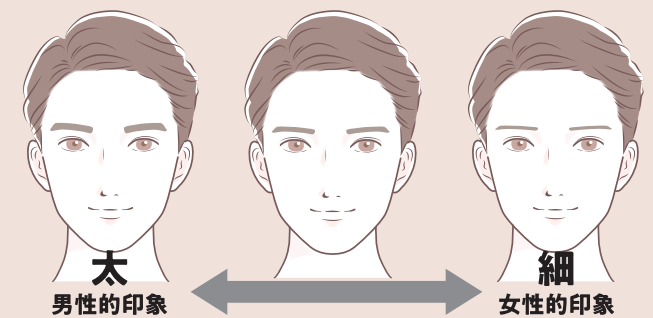
上がり眉がおすすめです。やや長めにするると小顔効果も期待できます。

03 デザインの要素

眉毛をデザインする上で考えるべき要素は、太さ、形、角度、長さ、濃さ、目との距離、眉間の距離などです。

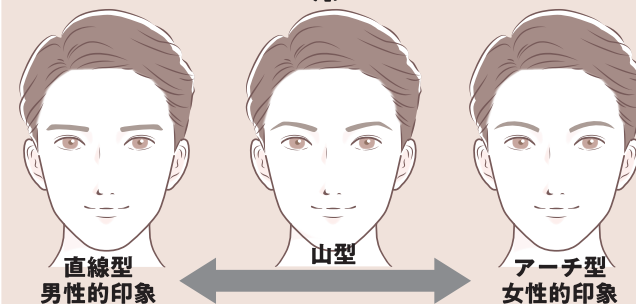
顔型に合うデザインと合わせて、カウンセリングに役立てましょう。

太さ



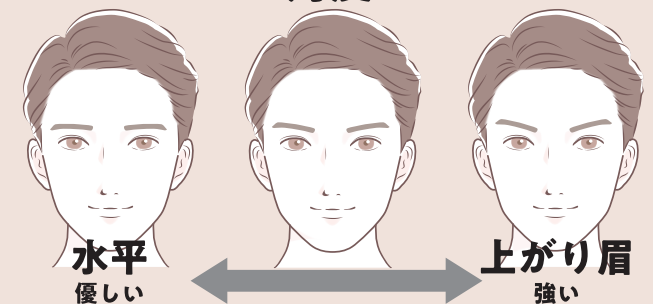
眉毛の太さは目の縦幅の2/3が目安で、そこから目指す印象に合わせて太さを調整します。

形



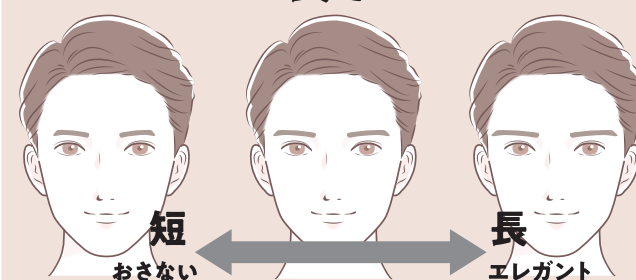
眉毛の形は、大別すると、直線か曲線かに分れます。眉山の位置は小鼻と黒目の外側を結ぶ延長線上に設定するなど、黄金比といわれる理想形が存在します。

角度



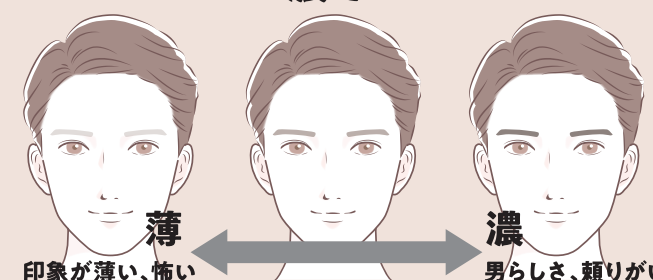
眉毛の角度は、水平だとナチュラルで穏やか、上がり眉だとキリリと強い印象になります。角度がつきすぎると怒っている印象になりますので注意が必要です。

長さ



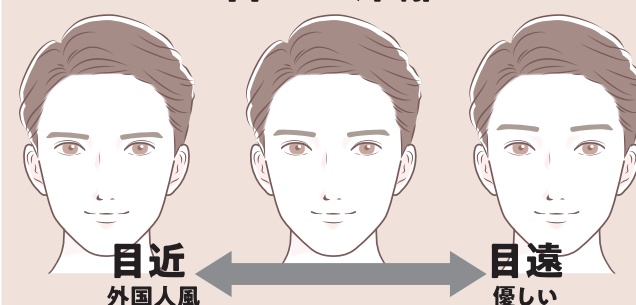
眉毛は短いとおさなく、長いとエレガントな印象になります。小鼻と目尻の延長状に眉尻を、というのが基本ですが、男性の場合は少し短くなるように、口角と目尻の延長線上を基本としてもいいでしょう。

濃さ



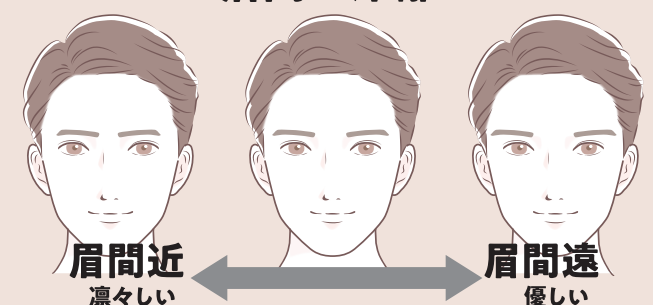
日本人の顔は彫りが浅いこともあり、眉毛が薄いと幸薄くみえたり、印象が薄く見えたり、不良っぽく見えたり、マイナスの印象を持たれがちです。濃すぎても「ソース顔」と呼ばれるように、くどい印象を持たれることもあります。

目との距離



目と眉毛が近いと、彫りの深い外国人風のお顔に、遠いと中性的で優しい印象になります。目指すイメージに合わせて眉上下のどちらのラインを残すか決定しましょう。

眉間の距離



眉間は近すぎると気難しく、離れすぎると地味な印象になります。眉頭の位置は小鼻から上がったラインの前後が目安です。

II クールジャパンの技

美女男術セミナー

マニュアル内の二次元バーコードは、該当技術動画へのリンクです。

技術動画はこちらから



シェービング



富士額・三つ襟

シェービング

シェービングは、お客さまの顔を中心として、手が自由かつ正確に動かせる位置に身体を置き、上体は施術部位に正対して、技術者の身体の中心で行うことが重要です。

「後方0°から…」というような理容師養成校で学んだシェービングの工程は、施術部位と正対するための方法といっても過言ではありません。位置、姿勢をこまめに動かさなくてもできるのも事実ですが、正対することで技術の安定性、しっかりした円運動などが確保され、ワンランク上の上質なシェービングにつながります。

1. レザーの運行

- ・顔の表面は球面状であるため、レザーが平均に安定して接触するには、図2のように人体自然の円運行が必要です。
- ・斜行運行をすることで、レザーの切れ味が高まり、皮膚への抵抗を抑えられます。

そのため、レザーの運行は直線ではなく円弧状に、斜行運行するのが原則です。

① 関節を軸とした円運行

レザーの運行は、それぞれの部位に対して、各関節を軸とした操作で行います。ヒジを軸とした円は大きいので長いストロークに適しており、範囲が小さくなるにつれて、手首、指関節を使用します。関節は、剃る場所によっては単独で使うのではなく、合わせて利用することで立体的に運行できます。(図3参照)

② 斜行運行

レザーは毛流に沿って運行します。また斜行することで、切れ味が増し、皮膚へのダメージも少なくなります。(図4参照)

③ 対皮角度

対皮角度は45°を基準(図5参照)とし、対象によってその角度を調節します。調節の考え方は次の2点が基本です。

- ・「毛が硬い」「毛量が多い」など、抵抗が大きい場合は、皮膚を傷つけやすいため、対皮角度を小さくします。
- ・軟毛のように毛の抵抗が小さい場合は、対皮角度を大きくし、刃先に力を持たせます。

④ 運行速度

息を吐きながら呼気による運行でゆっくり行いましょう。またお客さまの吐く息に合わせて行くと、より気持ちの良い技術となります。

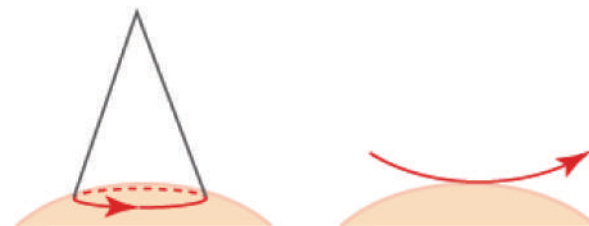


図2

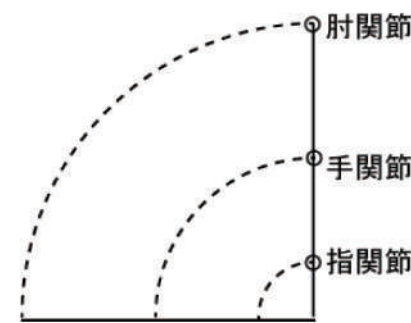


図3

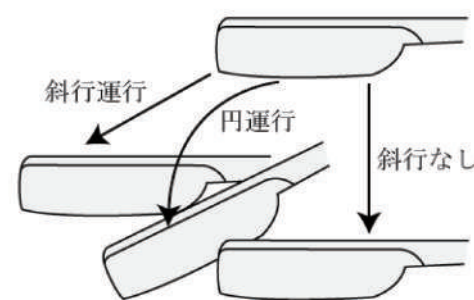


図4

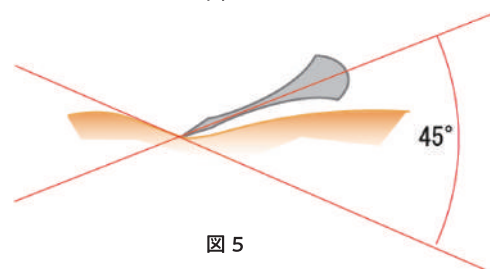


図5

2. シェービング

① 軟化剤とレーザーリング

軟化剤を塗布し、マッサージしながらお顔全体になじませます。前腕内側でスチームタオルの温度調節をした後、てん包・清拭し、レーザーリングをします。シェービングブラシは肌の上で泡立てるように操作し、常に肌面に直上に小さな回転運動をし、押さえすぎたり、浮かせずることなく、適度な圧であてるようにします。軟化剤の工程をレーザーリングに変えて、レーザーリングを2回行うことでも対応できます。



ブラシが直角にあたるようにヒジの位置をコントロール。毛先が跳ね返らない、密着する力加減で。



鼻の下など細かい部分はブラシの中央を示指で押さえて扇状にし、左右から塗布します。



てん包、密着、清拭を行います。このときは耳部と側頭部は拭きとりません。

② ワンシェービング(図6参照)

お客さまの顔を中心として、手が自由かつ正確に動かせる位置に身体を置き、上体は施術部位に正対して、技術者の中心で行います。運行順と立ち位置、持ち方は下記のとおりです。

〈レーザーの持ち方と技術位置〉

- | | | |
|--------|---------|----|
| ・1~5 | フリーハンド | 右側 |
| ・6~12 | バックハンド | 右側 |
| ・13~17 | フリーハンド | 右側 |
| ・18~22 | プッシュハンド | 左側 |
| ・23~38 | フリーハンド | 右側 |
| ・39~41 | フリーハンド | 左側 |
| ・42~44 | フリーハンド | 左側 |

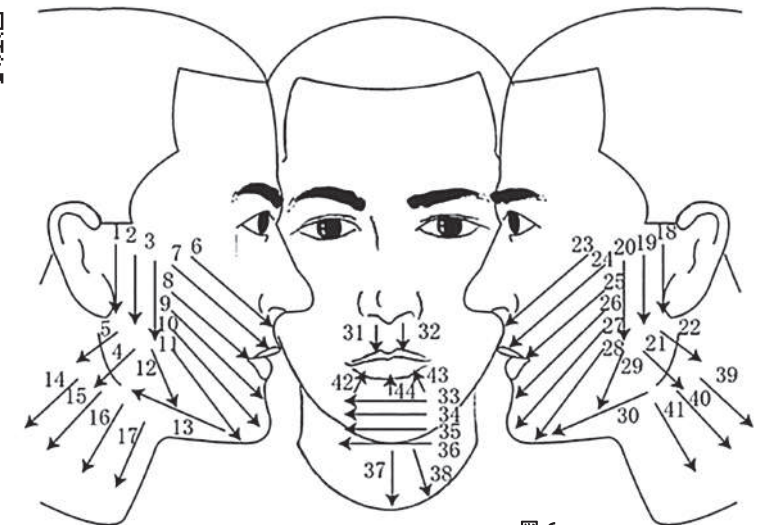


図6



左頬部はしっかり添え手をして、ゆっくり小刻みにならないように運行します。



人中は狭いため刃先が見えにくいので、レザーに集まっている泡は必ず取り除いてから運行します。



頤唇溝は下唇に気を付けて、人中同様に指関節を使って運行します。

技術のポイント

部位に直角がポイントです。かかとを180°回転させ、腰をしっかりとひねってお顔の反対側にも直角にブラシが当たるように、ヒジの位置をコントロールします。





フリーハンドです。ハンドルを45°に開き、刀腰部に母指尖をあて、示指、中指、薬指の第3関節の指腹を刀幹部下側に回しあて、小指は第2・3関節を自然に曲げて、第3関節の指背を刀尾とハンドルの側面にわたって乗せます。



バックハンドです。フリーハンドと同じ持ち方で、切れ刃を逆に返します。しっかりと右足に重心をかけ、右肩を軽く上げて右腕を振り子状態にして、力を逃がすようにして運行すると、負担をかけることなく運行できます。



プッシュハンドです。フリーハンドの持ち方で、手関節だけを手背側へそらし、切れ刃を向こう側へ向けます。技術者から刃先が見えづらいので、ストロークを長くせず、上体を反り気味にすることで力を逃がすのがポイントです。



ペンシルハンドです。刃尾がハンドルの内側からわずかに出る程度にレザーを開いて切れ刃を左に向け、筆を持つように刃首部を下げて持ちます。

姿勢・重心のポイント



レザーを持つ右手が安定するように、常に右足に重心をかけて技術するように心がけます。



覗き込むような左足重心は安定姿勢はNGです。しません。

③額と眉毛

眉毛は顔の印象を左右する重要なパーツです。基本的には図7の黄金比と呼ばれるバランスを意識しながら、図8の運行で整えます(顔の歪みに合わせて運行順は変わる場合があります)。眉毛デザインの考え方、メイク方法などは3ページから解説しています。

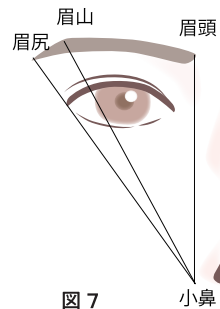


図7

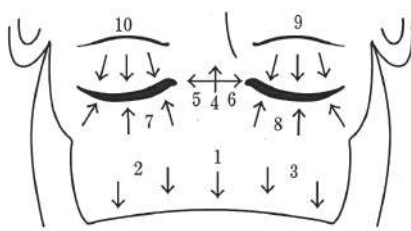


図8

④タオル清拭

スチームタオルで2回清拭します。1回目は従来の拭き取りで行い、2回目はタオルをアゴと額から2本重ねててん包後に拭き取ります。(図9参照)

これはこの後に行うマッサージ効果を高めるためのスチーミングで、耳までしっかり包むようにてん包します。

※技術動画ではデコルテまでオイルマッサージを行いましたので、施術部位も清拭しました。

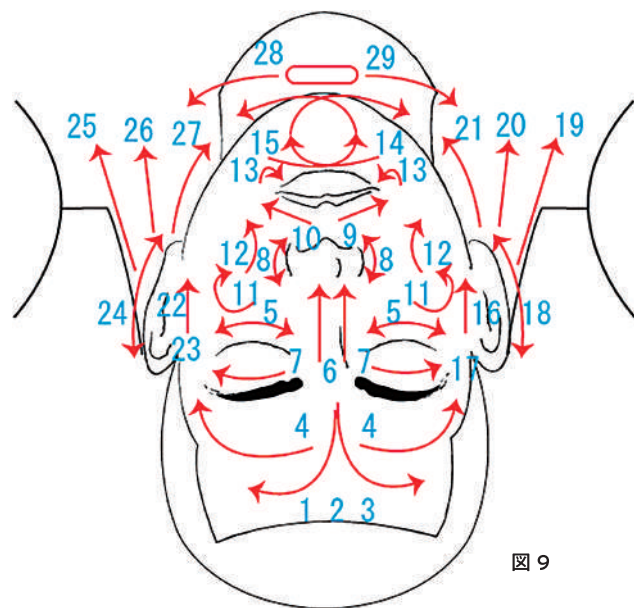


図9

フェイシャルマッサージ

アフターケアとしてオイルマッサージを行います。マッサージ部分の施術時間は10～15分程度です。マッサージは全体をマッサージする軽擦法と指圧法、重擦揉捻法を組み合わせで行い、力加減は「強・弱・軽」の3段階に分けたとすると、顔にはすべて軽の力で行います。シェービング後の肌であることに考慮し、力の加減には十分配慮して行いましょう。

①オイル塗布

オイルは、お客さまのアレルギーや好みをうかがって適当なものを選びましょう。



オイルは手になじませて温めてから塗布します。順序は顔面、胸、頸です。



②軽擦

指を立てることなく、丸い手で指腹を使って全体を軽擦していきます。特に小鼻周りなどは入念に行い、脂汚れを落としていきます。



全体を軽擦します。手のスピードは力の強さと比例しますので、ゆっくりと行い、特に小鼻周りは脂汚れがたまりやすいので入念に軽魔します。



③指圧

指圧法で図10のラインをプッシュしていきます。指圧のポイントは、圧すスピードと戻すスピードが同じであることと、皮膚に対して直上から体の中心に向かって圧すること、指腹を使って指を立てないことなどがあります。



図10



手指を立てすぎず、指腹全体をピッタリと当てるようにプッシュします。

④重擦揉捻法

図11の9コースに重擦揉捻法を行います。順序は上から下で、中から外へと運行します。



図11



中指を交互に交差させるように行います。力加減に注意しましょう。

⑤オイルの拭き取り

スポンジを使ってオイルを拭き取ります。スチームタオルでの拭き取りと同様、使用する面を変更しながら拭き取っていきます。

スポンジ拭き取り後、再度スチームタオルで拭き取ります。



スポンジの拭き取り面を変えながら行います。スポンジは角までしっかり使しましょう。



耳、頸、胸部も忘れずに拭き取ります。

⑥パック

パック剤を含ませたコットンまたはフェイスマスクを顔全体に置いていきます。今回は水にエッセンシャルオイルを添加したもの（水50cc、エッセンシャルオイル2,3滴、グリセリン少量）を使用しています。シェービング後であることに配慮し、刺激の強いパック剤の使用は避けましょう。放置時間は5～7分です。



コットンは半分に開いて使用します。フェイスマスクでも構いません。目蓋には行いません。

⑦顔面仕上げ

使用したパック剤によって仕上げは変わりますが、基本的にはローション、乳液、パウダーなどで仕上げます。



ローションなどを含ませたコットンで全体を押さえていきます。



特に男性はベタつきを気にする方が多いので、全体にパウダーを塗布して軽くマッサージした後、乾燥タオルで払うように拭き取ります。

⑧頸部仕上げ

長時間寝かせていたことと、オイルマッサージによって頸部にもオイルが付いていることから、椅子を起こした後、頸部をスチームタオルで十分に温め、揉みほぐしてから拭き取ります。

オイルマッサージを行った後、パウダーで仕上げて終了です。



スチームタオルで頸部を温めながら揉みほぐし、拭き取ります。タオルのへりなどは不快感の基になりますので、折り方などを工夫しましょう。



オイルを塗布して首から肩にかけてほぐした後、軽擦、スポンジでの拭き取り、パウダー塗布、乾燥タオル拭き取りで終了です。

レディスシェービング

レディスシェービングの運行は、基本的には男性のシェービングと同じですが、女性の場合は顔全体のうぶ毛を剃り、眉毛や生え際の形を整えて美しくすることが目的です。ここでは形を整える部分の代表として、額とえりあしの運行例を紹介します。

①額

女性の額は、かつては富士額とよばれる富士山の形に剃ることが多くありましたが、最近ではそれぞれの顔形などはいかす剃り方が増えています。いずれにしろ自然な生え際を剃り込まず、うぶ毛を残して自然でやわらかい線をつくることが重要です。

ここでは富士額をつくる運行例（図12参照）を紹介します。

富士額の運行

1. 後方0°に立ち、中心を確認したら、かかとを右へずらし①②をフリーハンドで、レザーの先端を使い形を出します。①で富士山の1辺をつくり、②は同じ角度のまま右へずれて、中心に山が来るように剃ります。
2. かかとを左へ移し③④をレザーの元部を使いフリーハンドで剃ります。
3. ⑤～⑧は側頭髪際突起部に緩やかな丸みを残して剃り、①～④につないでいきます。

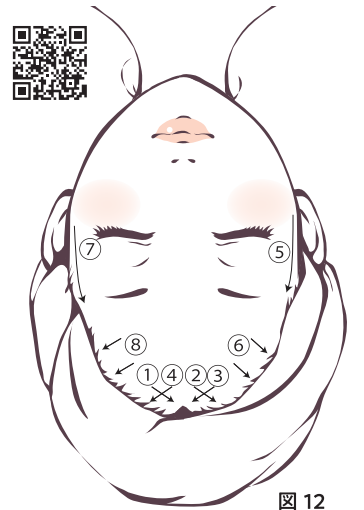


図 12

②えりあし

女性のえりあしの形には大きく分けて、MW型、W型、U型、直線型があります。（図13参照）

• **MW型** 首が細く長くきれいに見える理想的な形。和装、洋装問わず相性がよく、大人っぽい印象に。日本の伝統的な「三つ襟」と呼ばれる形状は、これにあたる。

• **W型** 日本人に最も多く、自然な印象に仕上がる。

• **U字型** やわらかく、若々しい印象に仕上がる。

• **直線型** 中性的でボーイッシュな印象に仕上がる。不自然になりやすく、あまり一般的ではない。

ここでは三つ襟をつくる運行例（図14）を紹介します。

MW型

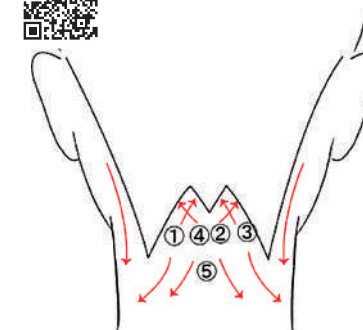
W型

U型

直線型

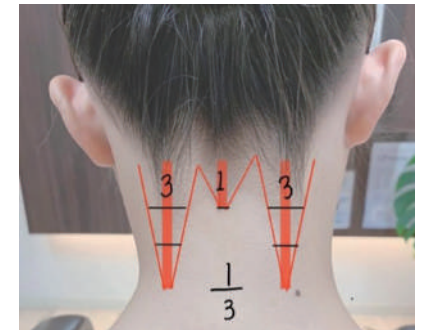


図 13



〈レザーの持ち方〉

- 1～2 バックハンド
- 3～4 ペンシルハンド
- 5 フリーハンド



三つ襟の中心部は両サイドの 1/3 が目安。首の太さやバランスを考慮して決定しましょう。右側・左側は髪際部を出し、後頸部は、うぶ毛をいかにして三つ襟になるようにします。